じんぶん堂3周年記念ブックフェア

# 知の深呼吸　考える　みえてくる

3rd Anniversary

じんぶん堂

powered by 好書好日

人文書の魅力を伝えるウェブサイト「じんぶん堂」はおかげさまで3周年を迎えました。真偽の入り交じった情報が日々飛び交い、社会は急速に変化しています。いまこそ、少し立ち止まって、先人の知恵を知り、自分の頭でじっくり考えてみませんか？人文書が、きっとその助けになるはずです。今フェアでは、人文書を手がける出版社のほか、人文書に造詣の深い3人の方におすすめの一冊を紹介してもらいました。

https://book.asahi.com/jinbun/

じんぶん堂は出版社と朝日新聞社による、人文書の魅力を伝えていくプロジェクトです。フェア参加社：明石書店、朝倉書店、幻戯書房、作品社、春秋社、晶文社、筑摩書房、白水社、平凡社

からたに・こうじん

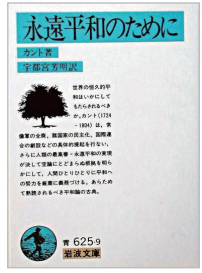
# 柄谷行人さん

じんぶん堂で「私の謎 柄谷行人回想録」を連載中

1941年生まれ。東京大学経済学部卒業、同大学大学院人文科学研究科英文学専攻課程修了。文芸批評から出発し、法政大学教授、イエール大学客員教授などを歴任。2022年にバーグルエン哲学・文化賞。22年度朝日賞。主な著書に『日本近代文学の起源』『探究Ⅰ』『トランスクリティーク――カントとマルクス』『世界史の構造』ほか。著作は、英語や中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語などに翻訳されている。

## おすすめの一冊

### 永遠平和のために




カント（著）／宇都宮芳明　（訳）
出版社：岩波書店
ISBN：9784003362594
定価：683円

カントは一八世紀末に、諸国家の連邦を提唱した。それが二〇世紀に、国際連盟や国際連合として実現されたのは周知のことだが、戦後日本の憲法九条の理念もまた、本書に根ざすものである。私は、今世紀のはじめに、来たるべき世界戦争の危機と、カント的諸国家連合の必然性を考えはじめた。ウクライナに始まった戦争が世界戦争に発展する気配の中、また日本が憲法九条を実質的に捨てようとしている今、これ以上に必要不可欠な本を思いつかない。

## 柄谷行人さんの著書

### 力と交換様式

柄谷行人（著）
出版社：岩波書店
ISBN：9784000615594
定価：3,850円

世界のあり方を「交換」の視点から読み解いてきた思想家の到達点。資本に国家と共同体が結びついた強固な体制を超える交換の「力」とは。

イラスト：塩川いづみ

# 読書猿（どくしょざる）さん

ブログ「読書猿 Classic: between/beyond readers」主宰。1997 年からメルマガを始め、2008 年にブログ「読書猿 Classic」を開設。ギリシャ時代の古典から最新の論文、個人の Twitter の投稿まで、先人たちが残してきたありとあらゆる知を「独学者の道具箱」「語学の道具箱」「探しものの道具箱」などのカテゴリーにまとめ、独自の視点で紹介。著書に『アイデア大全』『問題解決大全』（共にフォレスト出版）、『独学大全』（ダイヤモンド社）。

## おすすめの一冊

**日本語からの哲学**
**―― なぜ〈です・ます〉で論文を書いてはならないのか？**

平尾昌宏（著）
出版社：晶文社
ISBN：9784794973276
定価：1,980円

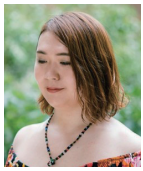
著者は読者とともに「哲学する」ことを紙上実演できる稀有の書き手だ。我々が親しんだ「なんでもないもの」からはじめて、読者に分かるように、否、読者とともに足下を確かめながら、一歩一歩進みながら、とんでもないところにまで我々を連れて行く。この書で俎上に載せられるのは、いつも我々のそばにあって触れぬ日のない言葉、日本語だ。探究の果てに今度はどんなところにたどり着くのか。いざ行かん。

## 読書猿さんの著書

**独学大全　絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法**

読書猿（著）
出版社：ダイヤモンド社
ISBN：9784478108536
定価：3,080円

学ぶ意味から環境の作り方、具体的な学びの方法まで、著者が自らの蓄積をもとに55の技法にまとめた「独学者のバイブル」。この一冊が「知」の世界の入り口に。



撮影：嶋田礼奈

みき・なゆた

# 三木那由他さん

1985年、神奈川県生まれ。2013年、京都大学大学院文学研究科博士課程指導認定退学。15年、博士（文学）。現在、大阪大学大学院人文学研究科講師。著書に『話し手の意味の心理性と公共性』『グライス　理性の哲学』『会話を哲学する　コミュニケーションとマニピュレーション』、共著に『シリーズ新・心の哲学1　認知篇』、共訳書にブランダム『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか』がある。

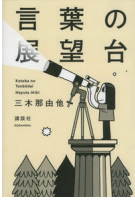
## おすすめの一冊

**トランスジェンダー問題**
**―― 議論は正義のために**

ショーン・フェイ（著）／高井ゆと里（訳）
出版社：明石書店
ISBN：9784750354637
定価：2,200円

本書が著者と訳者の尽力で生まれたものであることは承知のうえで、それでもトランスコミュニティの一員として、これを「私たちの本」だと思う。ここには、私たちがずっと言い続けてきたことが具体的なデータとともに示されている。もしトランスジェンダーについて何か言いたくなったら、その前にまずはゆっくりと本書を読んでほしい。焦る必要はない。私たちは突然やってくるわけでも突然去るわけでもなく、ずっと隣に、これまでもこれからもここに居続けているのだから。

## 三木那由他さんの著書




**言葉の展望台**

三木那由他（著）
出版社：講談社
ISBN：9784065283455
定価：1,430円

言語哲学を専門とする著者が、日々を過ごすなかで立ち止まった言葉とコミュニケーション。「日常の私」に「研究者としての私」も交えてつむぐエッセー。「紀伊國屋じんぶん大賞2023」第2位。

あかししょてん

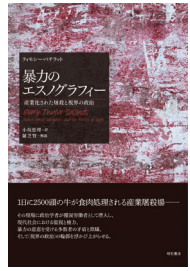
# 明石書店

明石書店
AKASHISHOTEN

創業者の出身地である兵庫県明石市から社名をとり1978年に創業。人権の尊重を基本理念として出版活動をおこなっています。webサイトはhttps://www.akashi.co.jp/　ツイッターは@akashishoten

## おすすめの一冊

**暴力のエスノグラフィー**
**―― 産業化された屠殺と視界の政治**




ティモシー・パチラット（著）／小坂恵理（訳）／羅芝賢（解説）
出版社：明石書店
ISBN：9784750354477
定価：3,080円

1日に約2500頭の牛が食肉処理される産業屠殺場に政治学者が覆面労働者として潜入するという、衝撃的なエスノグラフィー。本書は、血と汗にまみれた生々しい現場の様子を緻密に描き出しながらも、単に施設の内部を暴露するのではなく、エリアス、フーコー、スコット、バウマン、ルソーなどの議論を援用しながら、忌まわしい慣習をひた隠しにする近代文明社会の矛盾を解き明かしていきます。食をめぐる問題のみならず、政治学、人類学、社会学、現代思想などに関心のある読者にも手に取っていただきたい1冊です。

## じんぶん堂で紹介した記事

「まさか」の本との出会い：『暴力のエスノグラフィー』の衝撃（前田健太郎さん・評）

ノンバイナリーってどういうこと？　heでもsheでもない、theyたちの話

あさくらしょてん

# 朝倉書店

朝倉書店

出版社の朝倉書店です。創業 1929 年。理学・工学・医学・農学・人文科学・家政学などの学術専門書、および事典・辞典・ハンドブック、大学教科書を出版しています。

buzz 噂 おすすめの一冊

## 敬語の事典

荻野綱男（編）
出版社：朝倉書店
ISBN：9784254510690
定価：16,500円

敬語ってどういうもの？ その答えはマニュアル本にはありません。本事典は、敬語の基本的な事柄を丁寧に解説しながら、さらに広く敬語の多様性に着目しました。時代的変遷、地域的変種、年齢差・男女差・職業差など社会的変遷、マスコミ・家庭・学校・会社・地域社会・手紙・メール・広告・国会・挨拶などの幅広い場面ごとの敬語を考察、そして外国語との対照から、研究法、教育、周辺分野までも含み、敬語を総合的に扱った、類のない事典です。

● じんぶん堂で紹介した記事と本

懐かしいあの絵本を、違う視点で読み直す
～ウクライナ民話『てぶくろ』が描かれた時代

『絵本の事典』
中川 素子・吉田 新一・石井 光恵・佐藤 博一(編)
ISBN：9784254680225

げんきしょぼう

# 幻戯書房

幻戯書房

幻戯書房は歌人で作家の辺見じゅんが、父であり、角川書店の創立者である角川源義の創業の精神を受け継ぎ、2002年に設立した出版社。後世に受け継ぐべき出版物を少部数ながらも装幀、造本、また流通といった出版文化全体に目配りした出版活動を文芸書を中心に続けています。

## おすすめの一冊

**唐十郎のせりふ**
**―― 二〇〇〇年代戯曲をひらく**

新井高子（著）
出版社：幻戯書房
ISBN：9784864882392
定価：3,080円

批評するとはどういうことなのか。批評者の意識を努めて消して、神の言葉を憑依させるシャーマンのように、物の声を聴き取ろうとする。批評者がおのれを消すと、批評対象もおのれを消す。この二重反復で、批評のありようの見本となる作品。詩人の感性は、ここまで、唐十郎作品を敷衍するのか。演劇、ましてや唐十郎に関心がない人にも、難解な唐の戯曲を読み解いた本書をお読みいただきたい。第３２回吉田秀和賞受賞作品。

## じんぶん堂で紹介した記事

役者と写真家と詩人が語る、劇作家・唐十郎の世界

果てなき“文芸の共和国”を目指す〈ルリユール叢書〉とは
――ひとり編集部で30冊刊行できたわけ

さくひんしゃ

# 作品社

1979 年 1 月創立。中上健次『水の女』、山田太一『沿線地図』を処女出版。軽薄短小の時代に抗い、硬派であるが人文・日本文学・海外文学・芸術・随筆など幅広いジャンルで独創的出版物を刊行。第 53 回毎日出版文化賞を企画部門 ( 日本の名随筆 ) で、第 71 回同賞を田川建三訳著『新約聖書 訳と註 全 7 巻 ( 全 8 冊 )』で受賞。

おすすめの一冊

## エリック・ホッファー自伝

エリック・ホッファー（著）／中本義彦（訳）
出版社：作品社
ISBN：9784878934735
定価：2,420円

失明、孤独、自殺未遂、十年の放浪、そして波止場へ……。港湾労働者にして、哲学者・柄谷行人がその著作を訳し、中上健次に「ホッファーのように生きたい」と言わしめた〈独学の思索者〉が綴る情熱的な精神のドラマ。1920～30年代のアメリカの貧民街、農場、鉱山を舞台に、自身をとりまく個性あふれる人々との出会いと別れ、そして生きることの意味を綴った比類なき自伝的回想。邦訳刊行から20年を経た今も愛読され続ける「現代の古典」！

## じんぶん堂で紹介した記事と本

元首相銃撃・山上徹也容疑者は、死刑にできるのか？

『死刑と日本人』
菊田幸一（著）
ISBN：9784861828997

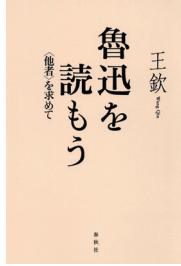
しゅんじゅうしゃ

# 春秋社

1918年創業。わが国初の『トルストイ全集』をはじめ、宗教・思想・哲学・心理・医療・音楽等の専門書の刊行をつづけ今日に至っている。HP：www.shunjusha.co.jp　Twitter：@shunjusha　編集部 Instagram:@shunjusha_ed　web 春秋 はるとあき：haruaki.shunjusha.co.jp　メールマガジン配信中 登録は無料です。www.shunjusha.co.jp/company/cc1920.html

buzz 噂 おすすめの一冊

## 魯迅を読もう
## ——〈他者〉を求めて




王欽（著）
出版社：春秋社
ISBN：9784393461358
定価：2,860円

中国近代文学の巨人・魯迅は、日本の教科書でも取り上げられているため、多くの人がその名前を知っている。本書は、小説だけでなくエッセイや評論なども含む、多くの魯迅作品のテクストを実直に読み解いてゆく。すると、文学が我々を「他者との新たな関係性へと導く手引き」となる可能性を秘めていることが見えてくるだろう。「文学の意義」が軽視されがちな今こそ改めて読みたい、新進気鋭の研究者・王欽氏による画期的な魯迅論。

## じんぶん堂で紹介した記事

なぜわれわれは魯迅を読んでいないのか
——『魯迅を読もう』の読者に寄せて（1）

仏とは何者か、どこにいるのか。その変容から読み解く仏教
『「ほとけ」論』

しょうぶんしゃ

# 晶文社

東京・神保町にある、文学・芸術・人文を中心とした書籍と各種学校案内書を発行する出版社です。犀のマークが目印です。HP：https://www.shobunsha.co.jp/　Twitter：@shobunsha

おすすめの一冊

## 水中の哲学者たち

永井玲衣（著）
出版社：晶文社
ISBN：9784794972743
定価：1,760円

新進気鋭の哲学研究者の初となる単著。研究と並行して、学校や企業などで哲学対話を行う中での気づきをエッセイとしてまとめた。日常のふとした瞬間に感じるすぐに流れていってしまいそうな心の動き――たとえば、日々目にするバラエティ番組でのやりとりや子どもたちの何気ない問いなど――を丁寧に掬い取り、一つずつ検証していく。小むずかしい概念を知らなくても、だれでも身近に哲学というものを体験できると感じさせてくれる一冊。

### じんぶん堂で紹介した記事

「約束は守らなければならないのか」
「なんで冬にアイスが食べたくなるの？」
哲学対話の「問い」はすぐそこに

ゆらぐ死生観…医師が懸念する現代人の死に対する意識
「ピンピンコロリはますます難しくなる」

ちくましょぼう

# 筑摩書房

東京のひがし・蔵前から注目の人文書をピックアップ！ 内容紹介やレビュー、著者インタビュー、イベントレポート、コラムなど、とびっきりの情報をお届けします。HP：www.chikumashobo.co.jp/ Twitter：@chikumashobo

## buzz 噂 おすすめの一冊

**ベリングキャット**
**―― デジタルハンター、国家の嘘を暴く**

エリオット・ヒギンズ（著）／安原和見（訳）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480837226
定価：2,090円

シリア政府の戦争犯罪をあばき、ロシアの暗殺者の身元を特定し、ウクライナで民間機を撃墜した黒幕をも突き止める。世界中から注目される調査報道ユニット〈ベリングキャット〉。かれらはプロのジャーナリスト集団というわけではありません。使う情報も、SNSの投稿や流出した名簿など公開されたものだけ。フェイクもプロパガンダも混在するウェブ情報のなかから、権力者たちが望まない真実へたどりつく。その過程が、鮮やかに、痛快に描かれます。

## じんぶん堂で紹介した記事

**謎の調査集団「ベリングキャット」とは何者か？**
**創設者みずから語る【前編】**

**沖縄の若者たちはどんな現実を生きているのか？**
**10年以上の歳月をかけた渾身のフィールドワーク！**
**『ヤンキーと地元』**

はくすいしゃ

# 白水社

1915 年創立の出版社です。哲学・歴史・文学・芸術・語学などの書籍が中心。ホームページは www.hakusuisha.co.jp　ツイッターアカウントは @hakusuisha

## おすすめの一冊

### クレムリンの魔術師

ジュリアーノ・ダ・エンポリ（著）／林昌宏（訳）
出版社：白水社
ISBN：9784560094686
定価：3,190円

《ロシア現代史の教科書としても通用するような密度、エンターテインメントとしても読ませる物語の魅力！　ウクライナ情勢を理解する鍵が、ここにある。》と小泉悠さんも推薦！　ウクライナ侵攻の直後に刊行されるや「紛れもないロシア史」として話題沸騰のベストセラー。実在の人物をもとに「プーチンの演出家」による政治劇がリアルに語られる本書は、人文書としても味わい深い小説です（アカデミー・フランセーズ大賞受賞）。

## じんぶん堂で紹介した記事

「プーチンの演出家」による政治劇！
ジュリアーノ・ダ・エンポリ『クレムリンの魔術師』

ウエルベックと聴くニール・ヤング
冷笑よりも、素朴だが重要なメッセージ

へいぼんしゃ

# 平凡社

1914 年創業。1931 年『大百科事典』を編纂、辞典の出版社としての礎を築く一方、本格的グラフィック誌『太陽』を創刊するなど多様な出版物を生み、今日に至る。HP:www.heibonsha.co.jp　twitter:@heibonshatoday

buzz おすすめの一冊

## 編集者ディドロ　仲間と歩く『百科全書』の森

鷲見洋一（著）
出版社：平凡社
ISBN：9784582703634
定価：5,280円

「百科事典」のパイオニアであり、「ウィキペディア」のルーツ――。18世紀フランスが生んだ、世紀の大事業『百科全書』は、いかに生まれたのでしょうか？そして「編集長」だった思想家ドニ・ディドロと「結社（ソシエテ）」の仲間たちが夢見た世界へのまなざしとは？　第74回読売文学賞を受賞した『編集者ディドロ』は、膨大な資料と最新研究を博捜、多彩な図版を駆使して、壮大な出版プロジェクトの全貌と未来を生き生きと描き出します。『百科全書』研究の第一人者による畢生の大著をぜひお読みください。

## じんぶん堂で紹介した記事

ディドロが追い求めた「共感の唯物論」へ――
『編集者ディドロ 仲間と歩く『百科全書』の森』

渡辺京二さんの『逝きし世の面影』に対する思い

# 書店員さんのおすすめ

じんぶん堂では、紀伊國屋書店の「じんぶん大賞」選考委員、丸善ジュンク堂書店の人文書担当者など人文書に詳しい書店員さんのコラムを掲載しています。
その一部を抜粋して紹介します。（肩書は執筆時）

## 紀伊國屋書店

### 壁を壊すケア「気にかけあう街」をつくる

井手英策（編）
出版社：岩波書店
ISBN：9784000614924　定価：2,090円

筆者は冒頭で「ケア」を再考し、医療・福祉に限らず、教育や子育て、貧困、人権、社会参加、さまざまな課題とむきあいながらまわりの誰かを「大事だとおもう」「気にかける」ことが「ケア」だということに思い当たる。お互いがお互いを気にかけあう関係を、生活の空間、身近な社会の中にどうやって作り出していくのか。社会のなかにあるさまざまな「壁」を壊すために続けられている9人の実践家の試みを紹介している。（学術和書部：津畑優子）

### ありのままのイメージ スナップ美学と日本写真史

甲斐義明(著)
出版社：東京大学出版会
ISBN：9784130802239　定価：5,720円

日本における写真史を、「スナップ」という撮影技法（あるいは美学）の観点で捉え直した労作です。「スナップ」とは、「広義では手持ち小型カメラで素早く撮影された」、「狭義では被写体に気づかれずに撮影された」写真および撮影技法のこと。著者はスナップ美学の根底には、「『作り込んでいない』写真によって世界のありのままの姿に触れようとする願望」があると言います。（札幌本店：小山大樹）

### 未来をつくる言葉 わかりあえなさをつなぐために

ドミニク・チェン（著）
出版社：新潮社
ISBN：9784101042411（文庫版）
定価：605円（文庫版）

娘の誕生の際の強烈な体験を経て、そこから自身の生い立ちにさかのぼる、いわば自伝的エッセイ。ドミニクさんのバックグラウンドにある哲学、科学、情報技術、アートそして言語といった幅広いジャンルにわたりながら、瑞々しく綴られています。自分以外の環世界に触れたときの驚きや喜び、そしてそれによってもたらされる気づきは、他ならぬ自分自身との内なる対話からもたらされるものなのだと、あらためて感じます。（札幌本店：林下沙代）

## ケアの倫理とエンパワメント

小川公代（著）
出版社：講談社
ISBN：9784065245392　定価：1,650円

様々な文学作品を「ケア」という観点で読み解いていく論集。この本では数多くの小説が著者の問題意識に引き付けられ、考える手がかりとして示される。著者がぶつかったケアという問いについて、手探りで考えていくような本である。現在の社会においては、多くの場合性差に根差した労働問題としての側面も強いケアの問題だが、この本ではケアをする者の内側にあるものにひとまず目が向けられる。（シンガポール本店：藤本浩介）

## イエスは戦争について何を教えたか 暴力の時代に敵を愛するということ

ロナルド･J･サイダー（著）／
後藤敏夫（解説）／御立英史（訳）
出版社：あおぞら書房
ISBN：9784909040046　定価：2,860円

サブタイトルは「暴力の時代に敵を愛するということ」。著者はこの難問に果敢に挑みます、徹底的に聖書を読み抜くことによって。何等かの保留や仮定を導入することなく、とにかく徹底して聖書の、イエスの事績に寄り添うことで、一切の暴力を拒否するイエスの姿を浮かび上がらせます。聖書を手元において読むのもおすすめです（特に三章・四章で取り上げる事績は多くの人にとってなじみ深いものだと思います）。（ゆめタウン徳島店：大籔宏一）

## 脱・筋トレ思考

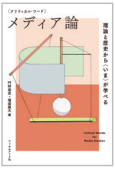
平尾剛（著）
出版社：ミシマ社
ISBN：9784909394255　定価：1,980円

著者は元ラグビー選手。アスリートとしての経験や科学的知見を元に、もっぱら筋トレの「罪悪」を、考察している。「しなやかな身のこなし」「コツ」「身体感受性」「つけた筋肉」「ついた筋肉」「身体知」「全身協調性」といったキーワードを駆使し、またトップアスリートの実践などを参照しつつ、筋トレには「からだ全体のバランスを損なうという致命的な落とし穴がある」ことを示していく。（学術和書部：松野享一）

## 予想どおりに不合理 行動経済学が明かす「あなたがそれを選ぶわけ」

ダン・アリエリー（著）／熊谷淳子（訳）
出版社：早川書房
ISBN：9784150503918　定価：1,100円

人間の不合理な行動に注目し、様々な実証実験によって、伝統的な経済学が想定する「合理的経済人（ホモ・エコノミクス）」では説明できない経済現象を解き明かそうとする。我々の不合理性に関する事例が豊富かつどれもユニークに紹介されていて、とにかく面白い。いともたやすく「見せかけ」に騙されてしまう被験者の姿に、決して他人事ではないのだが愛着さえ感じてしまう。（京都営業部：高部知史）



**クリティカル・ワード**
**メディア論**
**理論と歴史から〈いま〉が学べる**

門林岳史・増田展大（編著）
出版社：フィルムアート社
ISBN：9784845920068　定価：2,420円

画期的な入門書。物理的に非常に軽やかな本ですが、深いアプローチへの扉がそこここにある、細心の編集ぶりが光る一冊です。「理論編」「系譜編」「歴史編」の3部構成、全部で35のキーワード別の解説は、興味に任せてランダムにも読めますが、関連する用語をたぐっていって結局全部読んでしまう人が多いのでは。（書籍・データベース営業部：野間健司）

**わさびの日本史**

山根京子（著）
出版社：文一総合出版
ISBN：9784829972335　定価：2,750円

ワサビの我が国における記録を総覧した一冊。膨大な資料から野生植物が栽培植物に、そして「食材」として日本全国に浸透・定着していった過程を考察、記録する。身近なワサビの意外な歴史。しかもその歴史は試行錯誤の意思に満ち溢れている。そしてそれを明らかにしようとする著者のワサビへの愛着も、その努力同様の熱量を持つ。特に巻末の「わさび歴史年表」は圧巻の出来。（新宿本店：生武正基）

## 丸善ジュンク堂書店

**差別の哲学入門**

池田 喬・堀田義太郎（著）
出版社：アルパカ
ISBN：9784910024028　定価：2,200円

差別が悪であることは自明であるように思えますが、少し考えてみても、そもそも差別とは何か、区別とはどう違うのか、差別の悪は誰にとっての悪か、差別者にとってか被差別者にとってか、あるいは両方にか、など、より考えなければならない問いが次々と出てきます。熱いトピックなだけに一層冷静に考えなければならないのですが、そんな時こそ哲学の出番というわけです。（MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店：日野雅文）

**アナキズム入門**

森元斎（著）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480069528　定価：968円

本書の中に繰り返し登場する「国家がやることはいつでも意味が分からない」という台詞には何度も納得させられた。国民に対して何か良いものを与えてくれるのが国家なのではなく、「意味が分からないことばかりをするのが国家である」ことを前提にしてみると、急に世界の見え方が変わってくる。（ジュンク堂書店池袋本店：岡野まゆ）